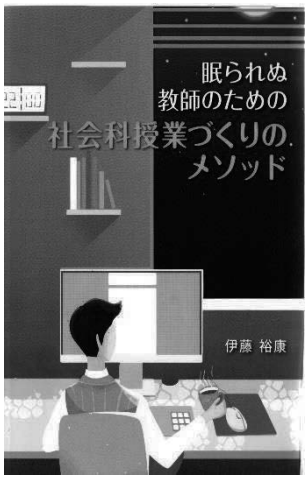
書　評

伊藤裕康著『眠られぬ教師のための　社会科授業づくりのメソッド』（美巧社，2020 年，120 頁）

ISBN:978-4-86387-141-0



本書は文教大学教授伊藤裕康氏（前香川大学教授）が，社会科授業づくりのガイドブックとしてまとめたものである。章立ては以下のとおりである。

はじめに
第Ⅰ講　授業びらきー始めよければ終わりよしー
第Ⅱ講　社会科教師は「社会科とは何か」を考え続けよう！
第Ⅲ講　彼を知り己を知れば百戦殆からずー子どもとはー
第Ⅳ講　発問づくりのセオリー
第Ⅴ講　指示と説明のセオリー
第Ⅵ講　見えるものから見えないものへー教育内容と教材の峻別を！ー
第Ⅶ講　再び見えるものから見えないものへ
第Ⅷ講　大まかに社会科の授業過程をおさえておこう！
第Ⅸ講　暗記の社会科と言わせないために
第Ⅹ講　教師の立ち位置は？
第ⅩⅠ講　板書の仕方は？
第ⅩⅡ講　机間指導の仕方は？
第ⅩⅢ講　社会科学習指導案とは？
第ⅩⅣ講　社会科学習指導案作成の仕方
第ⅩⅤ講　講義を終えるにあたってー一人も傷つくことがない楽しい社会科の授業をー
あとがきー道は続くよ，どこまでもー

１５講の章立てに示されているように，本書は，新型コロナ対応による大学の遠隔授業の１コマを１講としてまとめられている。社会科授業の基本とは何かを具体的で，わかりやすく述べている。

本書冒頭は，小学校２年生の子が，３年生から始まる社会科を楽しみにしているというエピソードから始まる。ところが，大学生の社会科イメージは社会科は〇〇を覚える好きではない教科という惨憺たる現実から，伊藤氏は，社会科を学ぶ「意味」が失われてるのではないかという。この問題意識から執筆された本書は，随所に子どもの立場に立って授業をつくり，授業を進めていくヒントがちりばめられているうえに，通読すると，それらが体系的に整理される構造になっている。例えば，第Ⅵ講では，教育内容と魅力的な教材との峻別が述べられている。教育内容とは，教えたいもの・見えないものであり，魅力的な教材とは，学びたいもの・見えるものだという。続く第Ⅶ講では，江戸時代の屋敷にある段差から身分が分かることに取り組んだ実践が紹介され，段差という具体的なところから，身分差という社会を学ぶ授業になることを理解できる。本書には，そのような具体的ヒントがあり，タイトルにふさわしい良書である。一読を勧めたい。　（土屋武志）